三年　『福岡の鹿踊・剣舞』

夏祭りに向けて鹿踊・剣舞の練習に励む兄と，それを温かく見守る家族の姿を通して，郷土愛について考える。また鹿踊・剣舞への関心を高める。

ホールから歌や「ほおっ」というかけ声が聞こえてきます。

「お兄ちゃん，がんばっているね。」

「夏まつりでおどるからね。」

ぼくとおじいちゃんは，こんな話をしながら小学校におどりを見にいきました。お兄ちゃんはいきをはずませ，あせびっしょりになっておどっています。おしえているほぞん会の人たちも　あせびっしょりです。

ぼくのお兄ちゃんは六年生です。夏休みだというのに，いそいで朝ごはんを食べて学校にいきます。夏まつりでおどる鹿踊・剣舞のれんしゅうをしているのです。

「お兄ちゃん，ぼくといっしょにプールに行こうよ。」

と言っても，

「だめだめ。あの鹿踊・剣舞をおどるんだよ。おじいちゃんもお父さんも踊ったおどりだよ。ぼくもじょうずにおどれるようになりたいんだよ。」

お兄ちゃんは，目をキラキラさせて言いました。

「じゃあ，行ってくるよ。」

今日もお兄ちゃんは，はりきって学校に行きました。お母さんはにこにこしながら見おくっています。

福岡の鹿踊・剣舞は三百五十年もむかしからおどられているそうです。

「鹿踊と剣舞のおどりには意味があるんだよ。鹿踊は，ほう作をねがうおどりで，剣舞は，わざわいをはらって平和をねがうおどりなんだよ。だから福岡のたからものだね。」

と，おじいちゃんがおしえてくれました。

いよいよ今日は，夏まつりです。小学校から『ぼんおどり』の歌が聞こえてきます。お店もたくさんあってみんな楽しそうです。校庭はたくさんの人でにぎやかです。ぼくは，かき氷を食べながら，お兄ちゃんがおどる鹿踊・剣舞が始まるのを待っていました。

「せーの！」

いしょうを着けたお兄ちゃんたちが，ほぞん会の人たちのふえの音に合わせて，ドンドコ，ドンドコとたいこをたたきながらおどりだしました。

地面に足をふんばって，頭をふりながらおどっています。鹿の口がカチカチと動いて，まるで生きているみたいです。

剣舞は，かたなやせんすの動きがそろっていてかっこいいです。

「じょうずだねえ。」

「よくがんばってれんしゅうしたね。」

見ている人たちは，大きなはくしゅをおくっていました。お兄ちゃんたちは，この鹿踊・剣舞を福岡のたからとして，じまんしているかのようにおどっています。

「すごい。お兄ちゃん，かっこいい。」

ぼくもみんなにまじってはくしゅをしていました。お父さんもおじいちゃんもうなずきながら，じっとお兄ちゃんのおどりを見ていました。

福岡の人たちは，この「福岡の鹿踊・剣舞」をたいへんだいじにし，ほこりをもって親から子へ，子からまごへとうけついでいます。

資料作成　仙台市立福岡小学校
協　力　福岡鹿踊剣舞保存会